



No. 134

2005.7.1

青山クリエ

発行:青山学院女子短期大学 〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111  
http://www.luce.aoyama.ac.jp  
AOYAMA GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

クリエは(Courrier)はフランス語で「使者」、「定期便」を意味し、英語ではCourierと綴ります。本学の広報誌として、4月、7月、12月、3月の年4回発行されています。青山クリエは本学のホームページからもご覧いただけます。

C  
O  
N  
T  
E  
N  
T  
S

Front-Page Message  
「自分を見つめよう……この夏休み」渡部 徳子 …………… 1  
Courier Forum  
「いまを生きる——21世紀は女性の時代?」…………… 2・3  
Campus News  
青山祭・課外活動プログラム・前期行事 …………… 4  
キリスト教活動の案内——サマーキャンプ・イン・軽井沢の案内 他 …… 5  
Campus Report  
進路特集——就職活動について …………… 6  
進路特集——私の編入体験記 …………… 7  
Voices & Echoes  
わたしの学生時代——浅見均・阿久津光子…………… 8  
卒業生はいま……—大森美香さん …………… 9  
夏休み特集——「音楽の夏、再生の夏」他 …………… 10  
夏休みに薦める私の一冊の本…………… 11  
Bulletin Board  
夏期休暇中の窓口案内・教務課からのお知らせ 他 …………… 12

## 自分を見つめよう……この夏休み

家政学科教授 渡部 徳子



キャンパスもすっかり夏気分になりました。1年生は伝統ある青山学院女子短期大学に入学してもう3ヶ月が過ぎ去ってしまったと、また2年生や専攻科生はあと半年とちょっとしか残っていないと、光陰矢のごとしを実感しつつ様々な感慨をもってこの夏を迎えていることでしょう。夏休みをどう過ごしたかは、大げさに言えば、これからの人生の豊かさにとっても重要な影響を与えます。そこで、皆さんとの普段の交流を通して得た感想や少しは経験豊かな人生の先達からのアドバイスを思いつくままに書いてみます。少しでもお役に立てば幸いです。

美しい緑に囲まれて中庭でおしゃべりに興じている皆さんの顔は輝いています。ところがどうでしょう。教室では未知のことを学ぶ期待と喜びとでもっときらきらと目が輝いてよいはずなのに、そう見えません。若さも輝きを失っているようです。単位のためだけに座っていませんか。積極的に講義内容に飛び込んで、自ら考え、共感する喜びや未知の事を知り、それを理解できる喜び、次のステップへの飛躍力を実感できる喜び、いろいろな喜びを体験してほしいのです。授業はそのきっかけを与える場であって、それを身についたもの(知識、叡智、教養、自信)とするのは皆さん自身であることを忘れないでください。講義から得たものは社会に出て必ず役に立ちます。勉強が足りなかったかなと感じている人はこの夏休みに沢山の本を読んでください。自分の世界がぐーんと広がるのがわかるでしょう。

皆さんは青短というネームバリューに包まれて女子大の生活を謳歌していますが、多くの卒業生がそうであるように、いずれ社会にでて活躍の場を求めます。厳しい競争社会の中で皆さん自身の真価が問われることとなります。だからこそ、いいかげんな気持ちではだめなのです。職を持つにせよ、奉仕活動をするにせよ、妻となり母となるにせよ、21世紀の日本の一翼になう皆さんです。どんな立場にあっても、女性の細やかな特性もあわせ持ちながら、短大で獲得した自分自身の力を十分発揮してほしいと願っています。大切なことのひとつは、自分の考えを、自分の言葉で、はっきり表現できること、です。ちょっと欲張って、正しい言葉使いで会話すれば、“もっと完璧”かもしれません。

社会生活を円滑に進めてゆくために道徳的な、または法

律で決められた約束事として「してよい事」と「してはいけない事」があり、これを守るのは当たり前です。最近、私が強く感じることは、それ以前の段階で「する事」と「しない事」というもっと基本的な約束事(あるいは礼儀作法という方が適切かもしれません)があるのに、それが守られない事が多いということです。例えば、朝、顔をあわせた時、“おはようございます”と挨拶する学生さんは極めて少ない。集団になると、“おはようございます”と声をかけてもおしゃべりに興じている。階段ですれ違うとき、ちょっと会釈するだけでもよいのです。挨拶は、場と時を共有する人同士が初めに「する事」と思いませんか。私の世代の感性では「しない事」の例を一つあげれば、人前でのお化粧でしょう。電車の中でお化粧をする女性達のことをマスコミでも取り上げられていますが、なんと授業中の教室で鏡を取り出してマスカラを使い始めた学生を見つけたときには驚きました。時と場所と状況に応じて「する事」と「しない事」を適切に判断できるセンスを身につけましょう。皆さん全部がそうだとは言いません。でも、一人でもセンスに欠けている人がいると、一事が万事と誤解されがちです。

皆さんは今、青春、真っ只中と感じているでしょう。「青春」、すごく良い響きですね。Samuel Ullman (1840-1924)の“YOUTH (青春)”(岡田義夫訳)という詩は、“Youth is not a time of life; it is a state of mind.”(青春とは人生のある時期をいうのではなく、心の様相をいうのだ)という1行で始まります\*。そして、若いというだけでは青春には値しない。たとえ歳月を重ねても、心に情熱を失わず、信念と自信、そして希望を持って進めれば、それが青春そのものなのだ続きます。この詩はとても長いので全部を示せませんが、皆さんもwebでこの詩を味わってみてください。心身ともに若い事は無限の可能性を秘めています。自分を信じ、より高いものを目指して邁進してほしいと思います。

いつまでも「青春」が続くように!

\*<http://www.rik.co.jp/itai/Y-SEISHUN.htm>



## いまを生きる ——21世紀は女性の時代？

「学生時代のいま」を充実させることは、人生の土台作りの上でも、進路を考える上でも大きな意味をもちます。クーリエでは、本学の学生・卒業生・教員・職員に、①学生時代の過ごし方②進路の考え方③21世紀の女性の生き方——の三つをテーマに熱く語ってもらいました。

——今日は三つのことをテーマに語りたいと思います。タイトルに「いまを生きる」を掲げたのは、「学生時代のいま」を無駄に過ごしてほしくないとの思いからです。正田さん、宮本さんは充実した学生時代を過ごすために心がけていること、実行していることはありますか？

正田 私が学友会に入ったのは、「短い学生時代に何かしたい」と思ったからです。入って良かったのは学科を越えて友人が出来たこととメンバーとイベントなどを企画し運営する中で、チームワークの楽しさや難しさを学ぶことが出来たことです。メンバーが女性だけということもあり、お互いに遠慮することなく議論できたのも良かったと思っています。

宮本 私は入学してからずっと「就職をどうしよう」と焦っていました。そんな中で「学生時代にしか出来ないこと」と考え、授業、青山祭、天城冬の集い、プレイデイ、クリスマスパーティなどに積極的に参加しました。学科を越えて先生方や学生と親しくなれたことがうれしかったです。

——李上さんは学生時代を振り返り、「これをしたのが良かった」「これをしてあげよかったです」と思うことはありますか？

李上 私は青短に入学した当初から編入を考えていたため、編入時に認定可能な科目や単位を調べ、授業にちゃんと出席し良い成績を取るうと一生懸命でした。推薦編入が決まってからは、授業をきちんと受けつつも色々な種類のアルバイトを経験し、学生のピュアな視点で様々な職業を見ることができました。後悔はありません。

——関谷先生、湯本先生は、学生に「学生時代のいま」をどのように過ごしてほしいと期待しますか？

関谷 自分の学生時代を振り返ると後悔ばかりですが、学生には自分自身の後悔から話をすることが多いですね。「友人はたくさん作ったほうがいいよ」とか「もっと勉強してほしい」と言うのですが、それは私自身が「そうすれば良かった」と思うからです。多くの学生に共通して願うのは、「失敗を恐れないでほしい」「回り道を嫌がるな」ということです。

湯本 私も自分自身の学生時代の反省が学生への望みになっています。私は小学校から大学まで同じ学校に通ったため、どうしても自分と育った環境や価値観が似た友人と付き合うことが多くありました。若い時は、柔軟性があり感受性が豊かで多様性や変化に対応できますから、学生には自分と違うタイプの友人と付き合いとか、今までやったことがないことにチャレンジしてほしいですね。社会人になると中々そうは行きませんが、学生時代は失敗が許されますから、失敗を恐れずにチャレンジし、世の中には色々な人がいて、色々な考え方があることを知ってほしいと思います。

——学生時代は、生涯学び続けるための土台作りの時でもあります。井上さんからアドバイスをいただけますか？

井上 図書館における授業ガイダンスの際に尋ねると、ほとんどの学生がパソコンを持っており、自宅でもインターネットで情報検索できる環境にあります。そのためか図書館入館者数や相談係への相談件数が減っていますが、学生にはインターネットだけでは得ることのできない情報がたくさんあることを知ってほしいと思います。図書館で本の杜を散策する中で全く別の興味が生まれ、自分の関心に広がりや深まりが出てきたりします。直線的な勉強だけでなく寄り道をどれだけしたかで、人間としての幅が備わったり、教養を身につけたりすることができるのだと思います。図書館に先ず足を運んでほしいですね。



井上 千明

### 勉強の面白さ—学びと就職

——学びのなかで勉強の面白さを実感するのはどんな時ですか？

正田 私が家政学科に入学したのは、「将来に繋がるものがあれば」と思ったからです。家では料理を作る機会があまりなかったのですが、調理学実習で料理の楽しさを実感したり、保育学では赤ちゃんのキューピット人形を抱きながら育児について学ぶなど、将来に繋がる学びができ、自分に合っていると感じています。



宮本 愛子

宮本 いま就職活動をしているから思うのですが、「こういう学びは社会人になると中々出来ないな」と感じます。そう思うと真剣に講義を聞こうと思えますし、面白く感じます。今日の日本文学の授業では、吉本ばななの『キッチン』を題材に、食に対する人間の意識が昔と今ではどう変化したかを学び、とても面白く思いました。キリスト教の授業でも、食について聖書ではどう記されているかを学びました。

——こういった学びは、就職活動で食品メーカーを志望する際に役立つと思いました。

——学びと就職活動について話が出ました。食品メーカー希望者の中には、志望動機に「食べることや作ることが好きだから」を挙げる人がいると思いますが、幼いのではないのでしょうか。好きや関心があるといったレベルから、たとえば食の安全や人の健康のために働きたいとか、食文化を通して人々の幸せに奉仕したいといったように、その人の価値観や職業観に結びつけてほしいと思うのですが、いかがですか？

関谷 たいへん興味深いお話です。私も学生時代に「アフリカの子どもを救うためにどうすればいいか？」と真剣に考えたことがあります。ニュースでアフリカの子どもたちが飢えて死んでいく映像が流されても、自分には何も出来ない葛藤がありました。でもこれから10年間頑張れば何か出来るだろうと思い、色々な可能性をノートに書き出し、関連ある授業を取りました。学生の進路相談に依りて感じるのですが、目標のために進むべき道は一つしかないと思う学生が多いようです。たとえば、フライト・アテンダントになりたい学生は、英語を勉強し、フライト・アテンダントになるための本を読みますが、他にも可能性があるのではと傍から見て思うことがあります。目標以外のことにも関心を持ち、色々なことを吸収し、選択肢を広げてほしいですね。

湯本 私は27年間企業に勤め、そして現在の学生就職相談に応じるようになり心配することは、「やりたいこと」を仕事にしたいと強く思う学生や、「好きなこと」を仕事にしないでほしいなと思っている学生が多いことです。好きなことのみを仕事にできればそれはもちろん幸運ですし、仕事を通して常に自己実現ができれば最高です。しかし、働くことは、なによりも、自分に可能にならず、人様のお役に立つサービスを提供し、それに対して報酬をいただくこと、そしてそのことに喜びを見出すものではないかと思えます。また、職場においては、自分が好きではない仕事や自分には適していないのではと思う仕事のほうが多いのが普通だと思います。しかし、そういう仕事の中でこそ「自分にはこういう可能性もあったのか」と発見でき、そして将来に向かって得るものが多いと思います。私が就職した頃は、4年制大卒の女性の就職口は限られており、部門別採用も行われていませんでした。入社するまで、どういう仕事をするか全くわかりませんでした。それがかえって今思うと気軽でした。あまり悩まずに与えられた仕事を一生懸命に行い、その中で自らの可能性と喜びを見つけていこうと努力しました。好きなこと、やりたいことをあまり前面に出すと、就職してからのギャップが大きいのではないかと心配します。

——学生のお二人は就職活動をする中でどんなことを思いましたか？

宮本 私は学校推薦が来ていた出版社に関心がある一方で、保育士になりたいとも思っていました。そんな中で出版社の最終面接に臨んだため、周りの学生を意識し過ぎ、焦ってしまいました。落ちてしまった時は「本当は行きたかったんだ」とショックを受けました。

正田 私も学校推薦で銀行の採用試験を受けたのですが、「学校推薦だ」と安心してしまい、会社のことをよく調べず、適性検査も正直に書いたつもりで消極的になってしまいました。積極的になければダメだと思いましたし、企業研究や自己分析も足りなかったと思います。今回の失敗を今後につなげられたらと思います。



正田 明日香

——李上さんはご自身の体験を振り返っていかがでしたか？

李上 短大時代は編入を目指していましたが、青学大に編入後も一般企業への就職活動はしませんでした。そんな中、国際法の講義でカナダに平和維持活動に関するノウハウが50年以上蓄積されているセンターがあると知り、インターネットで早速調べたところ、人材を募集していることがわかりました。応募要項を入力し、国際法の先生から推薦状をいただき、電話面接を経て採用されました。それが私が学生時代にした唯一の就職活動でした。これまで3か所の職場で勤務

参加者 正田 明日香 (学友会会長、家政学科2年)  
 宮本 愛子 (専攻科教養専攻)  
 李上 静宜 (UNHCRコンサルタント、1997年英文学科卒)  
 湯本 久美子 (英文学科教員、英語学・言語学専攻)  
 関谷 雄一 (一般教育科目教員、文化人類学専攻)  
 井上 千明 (図書館職員)  
 コーディネーター 奥井 正司 (青山クーリエ編集長、庶務課職員)

しましたが、仕事の内容よりも人間関係が悩むことが多くありました。学生時代は気の合わない人とは付き合わなければ済みますが、職場ではそうはいきません。また、仕事を続ける中で、関心がないと思う仕事から学べることもあるし、この人に理解してもらうことで仕事はこう進むといった駆引きを含め、「学ぶことは色々な」と実感しています。



関谷 雄一

関谷 私も以前は「ここで自分は何を得られるか」「この仕事は自分にメリットがあるか」と、恥ずべき事に自分の視点で仕事をしてきたことが多かったのですが、それでは仕事は上手く行かないことが徐々にわかりました。「自分はどのように貢献できるか」を考えるようになったのです。人間はその時々で学べることがあると思いましたし、私の経験からも、学生には進路の選択肢を広げ、前向きになってほしいです。

**自己分析は必要か？**

—仕事は、好きなこと・やりたいことをすることではないにもかかわらず、就職情報誌などでは「自己分析」が強調されています。この一種の自己分析ブームをどうご覧になりますか？

湯本 自己分析というのは、おもに30代~50代 の経験豊富なビジネスパーソンが転職を考える時などに、用いられるキーワードの一つだと聞きます。それが学生の就職活動にも波及したのではないかと思います。20歳前後の学生が自己分析をするのは難しいのではないのでしょうか。むしろ、若い学生はこれと決まったものを持っていないのが強みであり、大きな可能性を秘めていることが採用側にとり魅力なのではないかと思えます。本学に来る採用条件を見ても、企業が学科を問わずに人材を募集するという事は、学生に特定の能力やスキルを求めるのではなく、学生のもつ可能性や社会性に期待していることが出来ます。自己分析にそれほど依存しないほうが良いと私は思えます。

宮本 社会性とはどういう意味ですか？

湯本 先程、李上さんからのお話がありましたが、組織で働く上での最大の悩みは本人の技能や能力よりも人間関係であることが多いと思います。自分の能力を発揮できる快適な人間関係をどうしたら築くことができるのか課題となります。人と共に生きていくために必要な感覚・意識・知恵を社会性と呼べるのではないのでしょうか。



湯本 久美子

関谷 私が青年海外協力隊員としてアフリカで農村開発のプロジェクトに携わった時は、10人位の青年が仕事と生活でいつも一緒だったため、よくケンカをしました。でも一緒にやれたのは、「このメンバーと一緒に何かやってやろう」という思いがあったからだと思えます。人間関係が難しいと思われても、目標や目的意識が共有できると信じられるうちは、何とかかなると思えます。

**21世紀の女性の生き方—今日より明日はバラ色に**

—「21世紀の女性の生き方」について話したいと思います。「21世紀は女性の時代」と言われますが、正田さん、宮本さんはどのようなことをイメージしますか？

正田 女性の社会進出を最初に思い浮かべます。私もこれから社会に出る中で、まだ出会っていない自分に出会い、人間関係を築く中で成長していきたいと思えます。「自分自身を成長させたい」と思う女性は多いと思えます。

宮本 女性が男性と肩を並べて働くイメージがありますが、女性が職場で認められるためには、男性以上に実力を発揮しなければならないと感じています。

—湯本先生、井上さん、李上さんは、これまでどのようなことを意識してきましたか？

湯本 働く場面においては、女性であることよりも、一会社員・一教員としての意識が先にありますので、私自身は、21世紀の女性の生き方というような大きなテーマを意識したことはありません。しかし、女性にとって、働く環境は年々良くなっていると思えます。制度も法律も条件も整備されてきており、「昨日よりは今日は良くなっている」と強く実感していますし、「今日より明日はもっとバラ色にな

る」と思っております。井上 働き続けるためには「働きたい」という意志が大事です、努力することも大切です。また育児をしながら働くとなると職場の理解や家族の協力が不可欠です、保育園・学童保育・ベビーシッターなどの支援も必要になります。仕事を続けられる人はとても恵まれた環境にあると思えますし、私自身周りの人達の数々の支えによって「働かせていただいている」という意識が常にあります。周囲の理解や協力があるからこそ、働き続けられるのだと思っております。



李上 初めての就職でカナダに行く時も、後先を考えていませんでしたが、両親が「いつでも帰って来ていいんだよ」と言ってくれたことや、青短の先生が卒業後も進路相談に乗ってくださったことは励みになりましたし、感謝しています。この秋からイギリスの大学院へ進学する予定ですが、特に北東アジアの安全保障の問題について政治・経済をはじめ様々な側面から学んでみたいと思っております。



李上 静宜

—関谷先生は文化人類学がご専門ですが、21世紀は女性の働き方や生き方はどのように変わるとお考えですか？

関谷 人類学の観点から言えば、男女間には太古の昔から、男性にしか出来ないこと・女性にしか出来ないこと——否定できない性差——があり、その違いをお互いに認めながら生きてきました。現代では生活や仕事において、自分は男性であると意識しないほうが良いことが多くなりました。たとえば、私は最近結婚し、食事作り・掃除・洗濯をしますが、それを「母親がしていたことを自分がしている」とは思わないようにしています。時代の変化に伴い、男性・女性の役割分業も変わるわけです。

**たくさんの種を蒔こう**

—最後に、正田さん、宮本さん、李上さんから「21世紀をどのように生きたいか」を一言ずつ、関谷先生、井上さん、湯本先生からはエールをお送りください。

正田 常に生きがいを持っていたいと思えます。仕事を続けるにせよ、家庭に入るにせよ、趣味や生きがいをもって生きていきたいです。

宮本 これまで仕事で自己実現しなければ焦っていたのですが、今日話し合う中で、これからは仕事に縛られることなく、生涯を通じて追求できるものを探していきたいと思えました。

李上 将来、安全保障の問題に携わるという自分の目標に向かって生きていたいと思えます。でも現在習っている茶道や華道のような、仕事とは別の趣味の世界を持ち続け、いつもフレッシュな気持ちでいたいです。

関谷 前向きにチャレンジ精神を失わずに生きてほしいですね。私の分野を見渡しても、女性の人類学者がとても良い仕事をしています。「異文化理解やコミュニケーションに女性は長けているなあ」と感じます。人間の歴史が続く限り、男性・女性の問題は続くわけですが、女性には女性の特性を生かしてほしいし、「男性の私も負けないぞ」と最後に申し添えたいと思えます。

井上 志を高く掲げることは大切ですが、「私は一生働くのだ」と肩肘張るのではなく、その時々を柔軟に生きてほしいと思えます。仕事でも仕事以外でも、生涯かけてやりたいことを見つけて、いますぐ出来ないことでも「チャンスが来たらやろう」と心に余裕を持ってほしいですね。そのためにも学生時代に色々なことに関心をもち、「自分には何が出来るか」を探り、たくさんの種を蒔いてほしいと思えます。

湯本 第一に、生き方はこうあるべきだと決めずに、しなやかに柔軟に自然体で生きてほしいですね。第二に将来に向けて、自分一人でも楽しめる趣味を持っていただきたいと思えます。30歳を過ぎる頃から学生時代の友人と会う機会もだんだん減ってきますし、50代になると子どもが巣立ち、落ち込む人もいます。最後に、にっこり微笑むことです。にっこりしていると、お顔も美しくなりますし、自分から幸せを呼びこみ、良いことが起きると思うのです。

関谷 私も先輩から「お前は表情がカタイ」と言われたことがあります。笑顔は大切です。

—今日、私たちは多くのことを語り、学びました。皆さんの声が一人でも多くの読者に届き、何かを感じてもらえたら、これ以上の喜びはありません。皆さんのこれからは楽しみにしております。今日はどうもありがとうございました。(5月17日)

Campus News Campus News Campus News Campus News  
**キャンパスニュース**  
 Campus News Campus News Campus News Campus News

**青山祭** 日時 10月29日(土)・30日(日)  
 両日とも10:00~16:00  
 テーマ 「煌☆FUN」

今年度の青山祭のテーマは「煌☆FUN」となりました。この「煌<sup>ファン</sup>」という漢字には、キラキラと光り輝くという意味があり、また中国語では「FUN」と読める漢字でもあります。一人一人が煌めいていて、楽しい青山祭を、そして青短を多くの人に感じてもらいたいという強い思いを込めました。

この青山祭の楽しさを実感していただき、たくさんの笑顔と笑い声があふれ、いつまでも煌めく一つの思い出となっていたら幸いです。

(2005年度 青山祭実行委員会一同)

主な企画(予定)

- ・ライブ
  - ・トークショー
  - ・手品ショー
  - ・スタンプラリー
  - ・メイクコーナー
  - ・ケーキ屋
  - ・ドレス試着
  - ・似顔絵コーナーetc.
- 他にもたくさんの企画・展示を予定しております!!

前年度青山祭より



チャペルコンサート

模擬店風景

中庭コンサート

青山祭についてのお問い合わせ  
 青山祭実行委員会 (03-3409-8850) 学生部学生課 (03-3409-7091)

課外活動プログラム



マナー・キャリアデザイン講座(6/11)

学生部では様々な分野の課外活動プログラムを開催しています。進路選択について考える講座や環境を学ぶワークキャンプ、救命講習、運動不足解消のスポーツまで体験から学ぶことを重視したプログラムになっています。積極的に参加してください。

後期の予定 (詳細は掲示・学生情報端末でお知らせします。)  
 ボクササイズ講習会・歌舞伎セミナー・東京証券取引所見学・各種コンテスト

前期行事から

本学では正課授業のほかに、いろいろな行事を行っています。今回はそうした行事の企画・運営スタッフとして活躍する学生たちをご紹介します。

グリーンパーティ  
 4/26(火)

新入生歓迎の集いとして1974年から開催されている伝統行事です。



ポスター作成、プログラムの検討、景品選びから、当日の役割分担、後片付けまでスタッフをまとめるのは学生会本部役員。在校生全員が楽しめる行事の企画、クラブ・委員会活動の活性化に努力しています。

また、雰囲気盛り上げるBGM選びや音響設備は放送研究部が担当です。こうした目立たない活動が学校行事を支えています。



裏方だけがスタッフではありません。場を盛り上げてくれる出演者も大事なスタッフ。ダンス部の軽快なダンス、タヒューン先生の素敵な歌がパーティを盛り上げます。

春期ブレイディ  
 5/21(土)



ブレイディ運営の中心は体育系クラブの部員です。参加募集ポスターの作成、各競技の準備から試合の進行状況チェックなど、打ち合わせを重ね協力し合っています。

学生と教職員の参加するスポーツ大会、ブレイディは春と秋の年2回開催です。春はテニス、バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボールが行われました。



秋のブレイディはボーリングも加わって11/26(土)開催予定です。

マナー・キャリアデザイン講座

マナー・キャリアデザイン講座の受講生は1年生が多く、短大に入学して間もないにも関わらず、将来のキャリアについて真剣に考えている姿がとても印象的でした。将来に不安を持つ学生も沢山いましたが、自分ひとりで悩んでいてもなかなか解決しないこともあります。そんな皆さんには、できる限り相談できる人や目標となる人を見つけることをお勧めします。行きたい業界や企業が決まっているなら、ぜひOG訪問もしてみてください。将来のキャリアがよりイメージしやすくなるはずです。今回のマナー・キャリアデザイン講座の内容は、昨年出版した『女子大生のための仕事選びとビジネスマナー』に基づいています。この本には女子大生に向けたメッセージがたくさん詰まっています。興味のある方はぜひご一読ください。皆さんの将来が素晴らしいものになるよう、心よりお祈りしています。講師 合谷 美江

# キリスト教活動のご案内

## サマー・キャンプ イン 軽井沢のご案内

今年度のテーマである「ともに生きる」ことについて、自分の問題として考え、ともに語り合い、聖書に学ぶ夏のキャンプです。学科をこえ、学生・教職員が一緒にひとときを過ごします。夏の軽井沢でサイクリングなど、希望に応じて選べる時間もあります。どうぞご参加ください。

期 間 7月26日(火)～28日(木)  
2泊3日  
場 所 短大中軽井沢寮  
テ マ 「ともに生きる—Living Together—」  
特別講師 田坂興亜(アジア学院校長)  
対 象 全学生  
申込締切 7月11日(月)  
参加費用 8,000円  
(宿泊費、食費、往復バス代込み)

〈田坂興亜先生の略歴〉  
中学・高校時代、青山学院で学ぶ。東京工業大学、ニューヨーク州立大学大学院ストーニー・ブルック校卒業。1982年から1年間、JICAの派遣でタイの理科教育に協力。アジア各国の食品中に残留する農薬の分析などを研究テーマとしてきた。国際基督教大学教授を経て、現在、那須高原にあるアジア学院校長。著書『危機に立つ人間環境』『アジア輸入食品汚染』など

〈昨年度参加者の感想より〉  
♪「軽井沢、行ったことないしパーベキュー楽しそう！」最初そんな不純な動機で私は友達と申し込みました。でも、宗教活動センターなんて私には馴染みのない場所だし、日が近づくにつれて気分が重くなっていきました。そんなこんなであまり期待せずに臨んだ私ですが、沢山の出会いや活動を通していろいろ貴重な体験ができて、今では本当に参加してよかったと思っています。…動機はどうであれ、是非参加してみてください。

♪講演後に行ったグループ討議はとても勉強になりました。最初は堅い話題のように思えて、ついていけないのでは、と不安になりましたが、実際話し合ってみると、みな意見は十人十色で、色々な視点から考えることができ、とても刺激になりました。…思っていた以上に楽しかったので、行って良かったな、と思いました。

\*申し込み・お問い合わせは、短大宗教活動センター(北校舎1階)まで



中軽井沢寮食堂にて



グループディスカッション

### 後期キリスト教行事(～11月)

#### オール青山ハンドベルコンサート

日 時 9月23日(金・祝) 午後1時30分開演  
場 所 青山学院講堂  
演 奏 初等部、高中部、短大、大学の各ハンドベル・クワイア

#### ランチタイムコンサート

日 時 10月11日(火) 午後12時30分～1時20分  
場 所 短大礼拝堂  
演 奏 加藤 千鶴(ヴォーカリスト)

#### 青山祭開会礼拝

日 時 10月29日(土) 午前9時30分～10時  
場 所 短大礼拝堂

#### 後期チャペルコンサート(青山祭期間中)

日 時 10月29日(土) 午後2時～4時(予定)  
場 所 短大礼拝堂  
演 奏 短大聖歌隊、短大ハンドベルクワイア、ゴスペルグループ、  
その他大学団体(予定)

#### 青山学院創立記念礼拝(短大)

日 時 11月14日(月) 午後12時30分～13時  
場 所 短大礼拝堂

## 中軽井沢寮開寮のお知らせ

開 寮 期 間…7月28日(木)～8月31日(水)  
(8月9日午後～11日午前休業)  
宿 泊 料…4,000円(学生)  
(一泊2食付) 4,700円(学生家族、卒業生)  
申 込 受 付…庶務課 月・水・金  
13時～16時(夏休み中は13時～15時)  
(TEL:03-3409-7086)

中軽井沢寮は、しなの鉄道中軽井沢駅から徒歩20分程のところにあります。本学学生・教職員・兼任教師・卒業生とご家族にご利用いただけます。



中軽井沢寮

## 進路特集

## 就職活動について

## 今年度の状況と今後の就職活動について

今年に入って製造業を中心に景気回復に明るい兆しが見られ、求人数も増加傾向にあるという報道がされています。ただし、その「求人増」の内容は必ずしも本学の学生が多く希望している「一般事務職」ではありません。本学への求人件数は4月末時点で昨年同時期の1.3倍ですが、1社あたりの採用人数は「若干名」の企業が多く、選考基準の厳しさには変化がないように思われます。

内定時期や企業の知名度などに拘らず、また企業から選ばれるだけでなく自分も企業を選ぶのだという気持ちをもって、就職活動に臨んでください。採用試験も回数を重ねてきた頃だと思いますが、ここで

- ・5年後・10年後の長いスパンで将来を考え、仕事を通して何をしたいのか
- ・「自分のやりたいこと」は今まで視野に入れていた企業・業種・職種以外でもできないか
- ・いままで受けた試験や面接で自分が苦手だった部分はどこか、それはなぜか

といったことについて、改めて考え直してみることも大切です。

7月に入り、就職活動の疲れや、焦りが日に日に色濃くなってきている学生もいると思いますが、長い社会人生活の第1歩となる大切な時期ですので、周りに流されることなく、自分のペースを保って、納得のいく結果を選び取ってください。もし就職活動中困ったことや、わからないことがあれば、就職係にご相談ください。

## クーリエ就職講座

面接は、採用試験の中で最も大きなウェイトを占めています。企業の方に直接お会いして、自分のことを知ってもらい、また企業のことを知る重要な機会ですので、万全の準備をして臨んでください。

## 1) 面接を受ける前に……

- ・身だしなみを整える(清潔感と学生らしさを心がける)
- ・集合時刻10分前には到着する
- ・企業に提出する前にエントリーシートや履歴書はコピーをとっておき、面接前にもう一度目を通しておく

## 2) マナー……

- ・入退室の際の挨拶、学校名・学科名・氏名をはっきりと言う
- ・面接中は面接官の目を見て、落ち着いて受け答えをする
- ・聞き取れなかった部分や、わからない部分は曖昧にせず、素直に質問する
- ・グループ面接のときは、他の学生の発言にもきちんと耳を傾ける
- ・普段から言葉遣いに気を配り、正しい敬語を使って話す

## 3) 評価ポイント……

## ○入社への熱意○

「なぜこの業界・職種・企業を選んだのか」、「この会社に入ったらどんな仕事をしたいか」など、志望動機や入社後の抱負といった質問を通して、その会社に入って仕事をしていくことをどれだけ真剣に考えているかを企業は見ています。会社のパンフレットやHPはもちろん、店舗見学や新聞記事、実際そこで働いている先輩方のお話等を通じて、そこで働く自分をイメージし、その会社で働きたいという思いを伝えてください。

## 2005年3月卒業生の進路状況

## ○進路状況 (名)

	本科合計	専攻科合計	総合計
卒業生・修了生数	1138	144	1282
就職希望者数	603	124	727
決定者数	576	119	695
決定率	95.5 (%)	96 (%)	95.6 (%)
専攻科進学	156	0	156
大学・短大進学	136	4	140
留学	4	0	4
各種学校入学	54	0	54
その他	212	21	233

## ○就職数上位10社 (名)

三井住友銀行	37
プリンスホテル	24
東日本旅客鉄道	13
東京三菱銀行	11
ソフトバンクBB	10
東海旅客鉄道	7
みずほフィナンシャルグループ	7
ディーシーカード	7
東京電力	6
ホテルオークラ東京	6

## ○教育 (名)

私立幼稚園	57
公立保育園	6
私立保育園	14
病棟保育室	1
学童保育所	1

## ○公務 (名)

国家公務員	1
地方公務員	5

## 面接の受け方

## ○性格・適性○

「自己PRをしてください」「学生時代に頑張ったことは何ですか?」といった質問では、物事をどのように捉え、どのように解決する力のある人なのか、集団の中ではどのような役割を担っている人なのか、その会社の仕事をしていく上での適性はどうか、などを評価します。具体的なエピソード等を交えて、自分の言葉でわかりやすく面接官に伝えてください。先輩方の経験談では、無理に自分を飾らず、自分のことをわかってもらおうという素直な気持ちで臨んだ面接の方が結果が良いようです。

## ○コミュニケーション能力○

面接では、受け答えの内容ももちろん大切ですが、その人の話し方や、表情、人の話を聞いているときの態度、などを総合的に見ています。質問を的確に理解できるかどうか、相手の立場に立った説明や意見を述べられるか、といったことは基本的なことですが、人とのコミュニケーションの中では重要な要素です。自分の意見を主張するあまり、相手の話が聞けなかったり、反対意見に対して冷静さを保てなかったりといったことに注意しましょう。緊張してしまうとは思いますが、笑顔を忘れずに、相手との対話を楽しむという気持ちで臨んでください。

## 4) 面接を受けた後に……

面接試験後、「十分に答えられなかった」といった部分については、今後のために再考してみましょう。ただし、面接の回答に正解や不正解はありません。面接試験が通らないう、自分を否定されたような気持ちになってしまう学生も見受けられますが、前向きに受け止め、気持ちを切り替えて他社の試験に挑んでください。

# 私の編入体験記

立教大学社会学部現代文化学科への編入

阿部 くみ子さん (2005年3月 教養学科卒業)

たぶん編入を志す多くの皆さんと同じく、私も大学受験の時は青短が第一志望ではありませんでした。

しかし今振り返ってみると、短大で過ごした2年間はとても有意義で自分のためになりましたし、青短に入ったからこそ、今編入し、充実した毎日を送っているのだと感じています。

私が編入を志したのは入学前からのことでした。ただ、何を学びたいとか、どこへ行きたいといった明確なものではなく、そのため短大一年次はわりとのんびりとすごしていたように思います。

二年生になり、周囲が就職活動など卒業後を見据えて動きだしたころ、ようやく自分の将来について考え始めました。

ただ“四大に行きたい”のではなく四大に何をしに行くのか、何を学びたいからその道を選ぶのか——教養学科の幅広い興味に応える授業や、同じ志を持つ友達との交流を通して考えた結果、今のような道に進むことを決めました。

前期は学校に通いながら高校のときの英語文法の参考書を使って英語基礎力の強化、予備校への週二回のスクーリング、夏期休業中は精力的に予備校の講習会に参加し、その他に公務員試験の論文問題集を使った論文試験の対策や、専門科目に関する本や新聞記事

(2年生)

などを読み、自分なりに一冊のノートにまとめ専門科目試験の対策をし、後期から3月までは今までしてきたことを継続・復習しながら受験に望みました。

10月から4校の試験に臨み、最終的に編入先が決まったのは3月の半ばを過ぎたころです。

学校に通い、予備校に通い、休みも家でも課題に追われ、なかなか合格は出ず…と、さらにその間に友人の多くは就職や編入先が決まったりと、体も心も決して楽ではありませんでしたが、自分がこれからどうしたいのか、よく考え選んだ道だったから頑張れたのだと思います。

また、編入試験のための勉強を通して得た知識や興味は、編入後の今もとても役に立っています。

編入試験は大学受験とは違って、誰もが受けるものではありません。

でもだからこそ、自分で自分のこれからについて考え、行動するチャンスなのだと思います。

これから編入を志す皆さん、どうか頑張ってください。



4月	5月	夏休み	10月	3月後半
編入予備校に入学 編入先を意識した履習登録	予備校に通う(週2回・放課後) 英語の復習(高校の時のテキストを使用)	予備校の夏期講習 時事小論文の勉強(公務員試験のテキストを使用) 専門科目の勉強(新聞・専門書などを使用) 過去問を解く。	編入試験開始(勉強継続)	試験終了(合格)

明治学院大学国際学部国際学科への編入

宮腰 颯那さん (2005年3月 英文学科卒業)

私は入学当初から4年制の大学への編入を希望していました。一年次は特に編入の勉強はしておらず、編入ガイダンス等に参加し、情報収集を行いました。4年制の大学は4単位ずつ履修認定となると聞いたので、前期2単位の教科を後期も続けて履修し、なるべく4単位ずつ履修し、第二外国語も二年次に続けて履修するようにしました。

二年次の夏から編入専門の予備校に通い始めました。私は国際関係に興味があったものの、知識は皆無に等しく、授業も取っていなかったもので予備校では英語と国際関係の勉強を進めました。

明治学院の試験科目は英語と国際関係に関する論文、面接です。試験の1、2ヶ月前に過去問を解き出題傾向を調べました。英語は文法や長文解読、エッセイなどで、かなり難しく感じました。英文学科の人は必修科目のICE2でレポートの書き方を学ぶので、エッセイを書く際に役立つと思います。論文もあまり書いたことがなく、最初はどのように書くのか戸惑ってばかりでした。私は予備校の先生の手本を参考にして書き方を学びました。論文のテーマは国際関係の時事問題が多く出題されていたので、新聞をこまめにチェックし、そこからテーマを出してもらい、論文をいくつか書き上げました。また、自分の興味のある国際関係の本を図書館で借りて読みました。面接時

に編入後の研究テーマを聞かれると思われるので、自分の研究したいテーマを決めて、本や新聞から十分に知識をつけておくことが大切だと思います。その他にも面接時に聞かれる志望理由や進路について等を事前にまとめておき、面接直前までチェックしておくことをお勧めします。私は両親や友達に面接のシミュレーションをしてもらいました。

面接では提出した成績表にも触れられたので、良い成績を取っておくに越したことはないと思います。青短の授業は、なるべく欠席せず、真剣に授業を受けていれば単位を落とすこともなく、良い成績を取れると思います。英語は単語力や読解力をつけるために長文を読むことをお勧めします。青短の先生方は編入試験に対し、とても理解があるので、不安なことがあれば相談に乗っていただくと良いと思います。

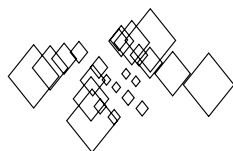


1年生4月～2年生5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月
編入ガイダンス等に参加し、情報収集する。	編入専門の予備校を探る。 予備校見学	予備校で英語と国際関係を学ぶ。 入学願書を取り寄せる。	引き続き予備校で英語、国際関係を勉強しつつ、関連本を読む。 新聞をチェック。 過去問を解き始める。 面接準備	編入試験(合格)

○大学編入学者数上位10校

	(名)
青山学院大学	56
玉川大学	8
学習院女子大学	7
立教大学	6
明治学院大学	5
フェリス学院大学	4
日本女子大学	4
中央大学	3
武蔵野美術大学	3
立命館大学	3

※青山学院大学への編入体験記は前号(133号)に掲載されています。



## わたしの学生時代 第3回



### よき出会い

児童教育学科 浅見 均

私は、心理教育学科の教育学専修コースで学び、教員を目指していた。学科は80名で、約半数が教育学専修、大変こじんまりした環境の中で学生生活を送り、幼稚園、小学校の免許と中、高の社会科の免許の両方取得すべく学んだ。今から考えるとずいぶん無茶なことをしたと思う。取得単位数は4年間で250単位を超えていた。しかし、その中で様々な師とのよき出会いがあった。

授業を受ける際の私の楽しみのひとつは選択科目にあった。教職科目などで多くの選択科目が用意されていたが、「図画工作科教材研究」、「家庭科教材研究」、「家庭電気」など興味深い科目の受講生はほんの数人で、それぞれの先生の人柄さえも伝わってくる距離の中で学べたことは私にとって喜びであった。今でも「家庭科教材研究」でハンバーグを作ったことを覚えている。肉の臭みをとるのに干し葡萄を入れるとよいこと、ハンバーグの中央をへこませて焼くと熱の通りなどが均等になることなど、いまだに役に立っているからありがたい。



学祭で(幼児教育研究会)

生物学・保育学の落合盛吉先生は「学問は命がけでするものだ」、「これからの幼児教育は男も現場にどんどん入っていかなくてはいけない。また、大学院を出た人ももっと幼児教育に携わらなければ日本の幼児教育はだめになる」と80歳を過ぎた老教授が傲を飛ば

していたのが妙に心に残った。そのこともあって、私は後に22年間幼稚園教諭として働くようになったような気がする。また、地学の綱島先生は非常勤の先生でいらっしやしたが、やはりかなりのご高齢で、ある時、梗塞だったと思ったが体調を崩され、しばらく休まれておられたにもかかわらず、お孫さんに付き添わせてまで、我々を秩父の長瀬まで地層の現地実習のために引率してくださった。その時先生は「どうしても君たちにここをみせておきたかった」とつぶやかれた。先生の教育にける情熱が伝わってきて、いたく感動し、今も心の底に大事にしまっている。

私は、幼児教育研究会というサークルに所属していた。ここでもいまだにOB会が開かれるほど堅い絆で結ばれた多くの先輩、後輩に出会うことができた。顧問の岡田正章先生は当時40代だったと覚えているが合宿などに積極的に参加される気さくな先生であった。幼児教育について語り、同じ釜の飯をいただき、また草野球をしたことなども覚えている。人格接触教育のよさを実感したものである。その先生が声をかけてくださったおかげでいま私はここにいる。

また、卒論の指導教授は教育哲学の山田栄先生であったが、常に穏やかで、謙虚な方であった。いつも「あなたは大丈夫」と絶対信頼されて？院までご指導いただいた。人間、信頼されると実力はなくとも努力せざるをえない。教育活動における信頼関係の重要性についてその姿勢をもって教えてくださった気がする。学生時代の多くの出会いが自分の今の血肉になっていると感謝に耐えない。数年前には、恩師の前之園幸一郎先生とともにイタリア幼児教育の研究旅行の機会に恵まれ、また岡田先生とはドイツにフレーベルの研究旅行が実現し、とても幸せな学びの時を持つことができた。学生時代とは一番人間関係が希薄になる時期と思われるがちだが、私の人生には今も大きな影響力を与え続けている。本当にありがたいことである。

### 手と素材からの出発

芸術学科 阿久津 光子

私にとって大学時代は思い出すと恥ずかしいばかりで、そのすべてが今の私が在るためにあったとは言え、若さは今なお照れくさい存在である。

芸大の美術学部工芸科デザインに入学したものの、受験時の目標「エディトリアルデザイン」は、ただ視野の狭かった私のイメージに過ぎなかったことを知り、たちまち迷路に入り大分回り道をした。1学年30名の学生が3年次から2つの専攻(ヴィジュアルデザイン及びインダストリアルデザイン)に分かれるのだが、先生方と学生たちがいつも研究室に集まってあれこれ話の花を咲かせている環境だったということだけで、わざわざ苦手な後者を選んだというお粗末さだ。10名のうち女性一人であったが特にモテもせず、それが幸いしたのか、今もよい仲間として付き合いが続いている。

出された課題にはいつも四苦八苦で辛かったが、唯一「フラット材を用いた椅子のデザイン」という課題で自分の適正と出会えた。工業デザイン分野はサーベイをして、コンセプトをたて、スケッチに図面、模型などと、



完成した椅子と初めて織った絨毯。大きな木枠に釘を打っただけの簡単な道具で制作。

さらに実際に製作、生産する人々との連携を伴い一人で完結できる世界ではないが、そのためにもこの課題ではデザインしたものを実寸図面のとおり、自分の手で最後まで制作、完成させることに意味があった。図面を持って江東区木場の問屋まで木材(桜材)を買いに行き、その場で寸法に合わせて粗取りで切ってもらう。2つに束ねた材木を左右の手に持ち、地下鉄〜徒歩で

大学まで運んだ。その重かったこと、5〜6歩ごとに一休み。木工室での製作の日は楽しくて、夢中になって丸棒やダボ(釘やネジの代わりにする止め部品)まで旋盤で削り出した。埃のなかにも木の香り。背・座面はキャンバス地にするため東日暮里の織維問屋を探した。こうして組み立て完成させた椅子は、乾燥に伴い少々ガタついてきたが今でも健在で、飴色のよい味わいを出して我が家にある。



この課題を通して、自分の手で素材に触れながら制作することが向いているとわかった私は、自分の生涯をかけて取り組むものを求め、結果「織」を学び始めたのは3年の終わり頃だった。大学には無い分野だったので、専門教室の夜間コースと夏休み講習などで基礎を学んだ。一本の糸である「線」が、緯糸を入れると「面」に変化する様は驚きに満ちていた。色彩もしかり。絵具など顔料の混色にはない中間混色のおもしろさと色質の美しさ。糸を染める、織機に経糸を掛けて織る、織維を用いて造形する等、いづれも化学、力学、数学的要素と深く関わっており、さらに人類誕生と共にある織維素材、織維製品の歴史や、それが現代造形芸術表現まで深く結びつき現れていることなど、興味は尽きない。そして今も織維による表現世界をゆっくり歩いている私があり、気がつけば30年の歳月を積み重ねるに至った。

出会いとは予想通りにはいかないものだ。最近「想定範囲内」や「自分探し」という言葉が流行っているが、そんなことを想定したり探すよりは、今いる自分のこの場所、この時間で確かに在ることの連続から、きっと自己と出会うのだと思う。



シリーズ  
卒業生はいま... 第7回

芸術学科卒業生の大森美香さんがドラマ『不機嫌なジーン』で、優れたテレビドラマ脚本に贈られる「第23回向田邦子賞」に輝きました。今秋からはNHK朝の連続テレビ小説『風のハルカ』が放映予定です。脚本家・映画監督として大活躍中の大森さんにご登場いただきました。

脚 本 家

1992年 芸術学科卒業 大森 美香 さん

昨年の10月、久しぶりに青山学院のキャンパスを訪れました。

青山祭2日目にN202教室でトークショーなるものを開かせていただいたのです。このイベントは当時上映間近だった映画『2番目の彼女』と『恋文日和』のキャンペーンの一環だったのですが、正門をくぐった瞬間に、十数年前に同じ場所でサークルのメンバーたちとフランクフルトを売ったことや、ライブにコンサート、ミス青山コンテスト(勿論見るほう)など様々な記憶が一気によみがえってきました。教室に入るとたくさんの若々しい学生の皆さんと、それにまじって芸術学科の同級生たちやサークルの仲間たちが迎えてくれて、なんだか田舎に帰ったようなとても暖かい気持ちになったのを覚えています。その時、私のつたない話を聞いてくださった皆さん、どうもありがとうございます!

私の短大生活は今考えても、よく遊び、よく学び、よく悩んだ2年間でした。芸術学科は当時まだ設立2年目。学生のみならず先生方も試行錯誤の時期だったのではないかと思います。あの時に美術史の馬淵明子先生のもとで書いた卒業論文(『サフィストたちの誘惑』という同性愛的モチーフを扱った芸術とフェミニズムの変遷のような内容だったと思う)は、「書くことって楽しいことなんだ」と気づいた一番最初の作品(というにはオソマツなのですが)でしたし、映像論の授業で見たフランス映画『赤い風船(Le Ballon Rouge)』の鮮烈な映像はそれまでの映画に対する概念を変えました(今は絶版らしく映像が手に入りません。どなたかお持ちの方がいらしたらぜひ教えてください!)。生涯で一番感受性の強いであろう20歳前後を、短大の友人たちと悔いなく思いっきり過ごせたことは、今でも私の一番の財産です。そして学生時代に感じた多くのことやOL時代の様々な体験が、確実に今の「書く」という仕事の原動力になっています。

今は10月3日からはじまるNHKの朝の連続テレビ小説を執筆しています。2005年の応募者からオーディションで選ばれたヒロインの村川絵梨さん、妹役の黒川芽以さんは現在ともに高校3年生。自分の18歳の頃と比べるとおふたりともメイクも上手だし、プロ意識は高いし、ビックリさせられます。来年3月までの半年間、全26週の放送で、今、第8週目の脚本を執筆中。これだけ長い期間の脚本を書くのははじめてで苦勞していますが、それだけ長い期間、登場人物たちとお付き合いできるのは楽しいことだとも感じています。また先日、連続ドラマ『不機嫌なジーン』で向田邦子賞という大きな賞をいただき、これから「絶対に面白い作品を作らねば!」とさらに気合が入っているところです。

お正月にはスペシャルドラマ(初の時代劇!)も放送されます。どちらも撮影はこれからなのですが、楽しい作品に仕上がると思いますので、ぜひお時間があったらご覧になってください。もし皆さんが私の作品を見て少しでも楽しくなったり元気になったりして下さったら、とても嬉しいです!

## 大森さんによる作品紹介

## 『不機嫌なジーン』

大学院で動物行動学を研究している学者のタマゴ・蒼井仁子が、環境生物学の権威である元彼・南原教授との恋愛のトラウマを引きずりながら、恋に研究にと四苦八苦する姿をコミカルに描くラブストーリー。2005年1~3月 放送。7月29日DVD発売。

出演:竹内結子、内野聖陽、黄川田将也、オダギリジョー、小林聡美、他。第23回向田邦子賞受賞作。

先日、行われた贈賞式には馬淵先生や芸術学科のクラスメートもかけつけてくれました。



向田邦子賞受賞パーティ(出演者の皆さんと)

## 『風のハルカ』

大分県の湯布院と大阪が舞台のNHK朝の連続テレビ小説。ヒロイン・水野ハルカが両親の離婚を経験しつつも、かつて家族みんなで夢見たレストランを実現させようと、新しい家族の絆を求めて繰り広げるハツラツ青春記。2005年10月 ~2006年3月 放送予定。

出演:村川絵梨、渡辺いっけい、真矢みき、黒川芽以、朝丘雪路、木村佳乃、藤竜也、他。

5月29日からクランクイン。私も湯布院に撮影を見学してきます。温泉も楽しみ。子役の皆さんがみんなカワイイ!



『風のハルカ』を発表する大森さん

## 『カバチタレ!』

人を信じて失敗ばかりのウェイトレス・田村希美と、人を信じない法律家・栄田千春。全く正反対の性格のふたりの女性が行政書士事務所を舞台に、反発しながらも悩み、助け合い、自分を見つけ出していく姿を描くハートフルストーリー。2001年1~3月 放送。

出演:常盤貴子、深津絵里、山下智久、篠原涼子、陣内孝則、他。

はじめてひとりて脚本を手がけた思い出の作品。今でもDVDを見ると元気が出ます。

大森 美香(おおもり みか)

1992年本学芸術学科卒業。OL生活後、AD(アシスタント・ディレクター)、AP(アシスタント・プロデューサー)を経て脚本家に。テレビドラマの脚本を執筆する一方で、映画も監督。ドラマ『不機嫌なジーン』(フジ系)で第23回向田邦子賞を受賞。映画『インストール』『恋文日和』『2番目の彼女』のDVDが発売中。

## 夏 休 み 特 集



## 音楽の夏、再生の夏

国文学科 鈴木 直子

夏生まれなのに暑さが苦手で、夏にはろくな思い出がないが、唯一続けて来たのは音楽だ。どこかの合宿所か誰かの別荘に、ありったけの楽譜と食料を持って籠り、ひたすら初見で合奏する。

大学で趣味でヴァイオリンを弾きたければ、オーケストラか室内楽かを選ぶことになる。有名な指揮者や良いホールで演奏できるオーケストラには未練もあったが、好きな曲を自分なりの解釈で思い切り楽しむには断然室内楽である。四本の楽器だけで奏でる弦楽四重奏という形式の醍醐味は、少人数でスコアを研究しながら音を一から積み上げる、そんな鶏口牛後の悦楽にある。

不思議なことに、楽器仲間はなぜか理系の学生が多い。私のような文系の、理論や思想や政治でアタマがいっぱいの大学院生には、せっかくの徹夜の安酒の夏の宴に、そのあたりがちよっと物足りない。しかしそれはそれでよかった。私にとって音楽の世界は、ことばの冗濫で飽和状態になった頭を休める貴重な時間だった。90年代初頭、街を歩けば嫌でも目につくイラン人出稼ぎ労働者、自立支援の



介助ボランティアで出会った「障害」者たちの日常、テレビで華々しく報道される湾岸戦争とそれへの日本の莫大な資金援助。社会問題を勉強するサークルに属していた私にとって、そうした社会を語ることは逃れる時間が必要だった。

音楽は世界共通語だ、などという人もいる。しかしそれはちょっと違う。音楽にも言語と同じように文法があり、壁がある。今年5月のチャペルコンサートで素敵なオルガンを披露してくださった酒井多賀志さんは、西洋音楽と奄美島唄がいかに異質であるか、そしてその全く異なる文法同士がしかし、それぞれの世界を保ちながら、それでも共に奏でられ得るという一筋の共生の可能性を示してくださった。自分の音、自分の文法、自分の立ち位置に責任をもつことからしか、他者との理解と共生は始まらない。

…最近では、楽器仲間も全国に分散し、合奏に明け暮れることはなくなってしまったが、各地で行われる夏の音楽祭には必ず出かけることにしている。5年間暮らした札幌には世界の若い音楽家たちが集うパシフィックミュージックオーケストラがあった。実家の松本ではサイトウキネンフェスティバルが行われる。易学では、生まれ月は子宮に戻るように静かに再生する時間なのだそうだ。音のシャワーで日常のことばを洗い流して、また社会に立ち向かう活力を得る。私にとって音楽の夏は、そんな胎内回帰の時間なのかもしれない。いつかは、ワーグナーの楽劇の世界をノイシュヴァンシュタイン城に作り上げて立て籠った究極の逃避王・ルードヴィヒⅡ世ゆかりのバイロイト音楽祭に出かけてみたいと思っている。

## 国際奨学金奨学生の紹介

専攻科教養専攻  
Supalak Kritsananon  
(スバラック・クリッサナーノン)さん



はじめまして、私はタイから参りました留学生のスバラックと申します。チェンマイ大学人文学部日本語学科を卒業しました。

私の家族は5人います。両親と兄と姉と私です。兄はバンコクにあるコンピューター会社で働いています。姉と私は双子の姉妹です。双子といっても性格はぜんぜん違います。姉は明るくて、話すことが好きな人ですが、私はおとなしくて、無口です。年齢が同じですから、友達のような姉妹です。姉は今サコン・ナコン県にある保育園で働いています。オーペアプログラムという英語を勉強しながら、子供の世話をするプログラムに応募して、今年の8月頃アメリカに行く予定です。

私は2年前に大学を卒業したあとで、故郷のサコン・ナコン県に戻って、サコン・ナコン・ラチャパット大学で1年半日本語を教えていました。

2004年9月に来日し、日本語国際センターの海外日本語教師長期研修に参加しました。そのプログラムが終わってから、一度タイに帰って、今年の4月に日本に戻りました。今回青山学院女子短期大学からの奨学金をいただいて、専攻科生として1年間日本語を勉強することになりました。授業以外でも、出来るだけ日本で色々なことを体験したいと思います。皆様どうぞよろしく願いいたします。

## 保健室だより

カラダとココロを元気にする夏休み

暑い季節、過労やダイエット等で体調を崩していませんか。心の調子はいかがですか？ だるさ・頭痛・たちくらみ等の低血圧症状に悩む人、冷房病の人には辛い季節ですね。

でも、夏休みがやってきます。自分で計画して使える時間がたっぷりありますから、毎日の食事・運動・睡眠や休息をちょっと工夫し、元気なカラダとココロに立て直して、夏を楽しみましょう！ 久しぶりにラジオ体操や早朝ウォーキングはいかがですか？

暑さや解放感に流されるだけでなく、人とも自分ともゆっくり向かい合い、自分にとって大切な事、本当に望んでいることを考えるのも忘れずに。

病気・性暴力被害・望まない妊娠・ドラッグ等は、あなたのすぐ身近にあるリスクです。助言や知識を求めながら上手に対処して、ライフスキルを磨くチャンスでもあります。

問題が起きたときは、電話相談・インターネットに加えて、保健室や学生課もどうぞ活用してください。

(保健室 深谷 いづみ)

## ◆夏休みの学生生活について◆

夏休みに合宿や個人旅行に出かける学生は何らかの方法で活動する期間・所在を明らかにし、連絡が取れるようにしましょう。万一、事故等にあった場合は、学校にも連絡してください。まずは健康第一に、有意義な夏休みを過ごしてください。

新任の先生が 夏休みに薦める “私の一冊の本”

『新しい女性の創造』

ベティ・フリーダン著／三浦富美子訳(大和書房)

英文学科 荒木 純子

20年後の自分は?と聞かれると、どのような絵が思い浮かぶでしょうか。

美しく、高等教育を受け、時間とお金に余裕があり、やさしい夫に愛され、かわいい子供たちにも恵まれて、芝生の庭付きの広い家で、何不自由のない日々を送っている——これは第2次世界大戦後のアメリカ中産階級女性の典型と考えられていたものです。ステキ!と思う方も多いかもれませんね。ところが、そのような女性の一人であった著者は1963年、主婦は満たされていないと、この本を出版しました。原題を直訳すると「女らしさの神話」となるこの本は、そのような神話は作り物であると主張し、たちまちベストセラーになります。多くの女性の共鳴を受け、アメリカ社会における女性の地位向上に向けての新たな運動が起きたのでした。



学生時代、なんか読みにくい本……と思った記憶があります。私自身が描いていたイメージとの違いやそれに対する憤慨でモヤモヤした気分になったのか、あるいは少しだけ心理学用語が入っているせいなのか、はっきりとは覚えていません。でも、2年前に読み直したら、いい本です。女性のエネルギーにみちた声が聞こえてきます。私たち女性が今ふつうに考える就職か進学かという選択肢も、当たり前ではなかったのですね。

ゆくゆく主婦を選ぶのも、負け犬(注:『～の遠吠え』)、オニババ(注:『～化する女たち』)に向かうのも、もっとなにか別の新たな道を模索するのも自由です。充実した人生を創り上げ、快適な環境を次世代にも伝えたいですね。

『ブリジット・ジョーンズの日記』

ヘレン・フィールディング著／亀井よし子訳(ソニー・マガジズ)

英文学科 梅垣 千尋

30代の独身女性、ブリジット・ジョーンズの毎日が日記形式でつづられた小説です。R・ゼルウィガー主演の同名映画を見たことがある人もいかもしれませんが、これはその原作本。ちょうど10年前、イギリスの新聞『インディペンデント』にコラムとして連載されていた作品で、とんでもないドジをしながら仕事や恋愛に奮闘し、自分の幸せを模索していくブリジットのひたむきな姿は、多くの女性読者から支持されました。同じ境遇にある女性として、私自身も彼女のことはとても他人事とは思えません。



ブリジットの魅力の鍵はどこにあるのでしょうか。私なりに考えてみると、まず第一に、さんざん失敗して恥をかいても自分のことを好きでありつづけていること。自分の欠点や弱さに向きあうことは、実はたいへん勇気のいることですが、彼女は情けない自分さえも受け入れる強さをもっています。第二に、「女の幸せは○○」といった世間の常識を鵜呑みにせず、それらを疑ってかかる姿勢を身につけていること。とはいえ、そうした常識から自由になることの難しさも、彼女は痛いほどわかっているのですが。そして第三に、ありのままの自分を安心してさらけだせる友達をもっていること。最悪な状態にあるときでも互いに助けあえる友人がいるからこそ、彼女は自分らしさを生き生きと輝かせることができるのでしょう。

ぜひブリジットに「出会って」みてください。自分がどんな女性になりたいか考えるチャンスになるかもしれません。

『小津安二郎物語』

厚田雄春・蓮實重彦著(筑摩書房)

児童教育学科 鈴木 俊之

『小津安二郎物語』は、映画監督小津安二郎のカメラマンとして多くの映画を小津とともに過ごし、撮影してきた厚田雄春のインタビューから構成された本である。題名からわかるように小津安二郎についての思い出や撮影秘話などが主な内容であるが、小津の映画を見たことのある人はもちろんのこと、興味はあるけど、あるいは名前も知っててもみたことない人にも、また小津の名前すら知らない人やそもそも全く映画に関心がない人にも是非読んでいただきたい。というのも、ここで語られる小津や厚田自身が非常に魅力的であり、映画が娯楽の中心であった幸福な時代の、映画に魅せられてその世界に入って働く人々の幸福な姿をみることができるところである。映画を見過ぎて落第し、ひよんなことで映画会社に入社し、小津と出会う。その小津を慕い、時には馬鹿なことをしながら、そして批判されても小津の「カメラ番」として映画を作り続けていく。そうした一人の職人の姿はある種の美しさを持っており、多くの人に知ってほしい。またこの書は蓮實重彦のあとがきにもあるように、あまたある「昭和史」を軽々とこえてしまう力があり、すでに過ぎた「昭和」という時代を知る意味でも非常に優れた書である。もちろんこれをきっかけに小津の映画を見てみようと思った人はすぐにでも映画を借りて見てほしい。「東京物語」「生まれてはみたけれど」なんかがおすすめ。



『夜と霧』

ヴィクトール・E・フランクル著(みすず書房)

教養学科 小林 知博

本書は、「心理学者、強制収容所を体験する」という原題の通り、医師であり精神医学・心理学的知識を持った著者が、被収容者や監視者の心理に焦点をあてて論考したものである。人間が精神的な極限状態の中で陥る、感情の消滅や鈍磨、利己性、精神・身体的な破綻について、非常に冷静・客観的に記述されている。



今回、本書を薦めたいと思ったのは、学生時代の夏休みのような時間的、そして恐らく精神的余裕がある時期は、あえてきつい本を読んで人間や人生について再考してみるのには好適だと思ったからだ。かくいう私は、本書を年末というただでさえ重い雰囲気のある時期に読んで、相当落ち込んでしまった経験がある…。

さて、本書を読みながら自分自身を内省するにあたり、印象に残った箇所が2つある。1つ目は「人生に何を期待出来るかが問題なのではなく、人生が何を我々に期待しているかが問題なのだ」というフランクルの言葉である。言うは易く行うは難しであるが、(自戒を込めて)人生に期待ばかりしている人が世の中には多いように思う。もう1つは「人生は歯医者椅子に座っているようなものだ。さあこれから本番だ、と思っているうちに終わってしまう」とフランクルが引用するビスマルクの一節である。現在を生きられない人に未来はない、ということだろう。これらの言葉、また本書全体を通して著者のメッセージについては、ぜひ皆さん自身で読んで確認してみたい。

**夏期休業中の窓口案内** ◎7/26(火)~7/29(金)、9/12(月)~平常どおり ◎8/1(月)~8/6(土)青山学院一斉休業のため事務停止  
◎7/30(土)~9/10(土)開室は下表のとおり

部 署	7/30(土)~9/10(土)(8/1(月)-8/6(土)は一斉休業)の開室案内		備 考
	曜 日	時 間	
庶務課	月・水・金	9:00~15:00 (11:30~12:30 は除く)	
教務課			
学生課			
保健室	保健室ドアに掲示	9:00~16:00	校医は来校いたしません
就職資料室	月~金	9:00~17:00	
学生相談室	月	11:00~16:00	
宗教活動センター	※	9:00~16:00	開室日はホームページで確認してください <a href="http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html">http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html</a>
図書館	月・水・金※	9:00~17:00	※開館日程は掲示・図書館のホームページで確認 してください <a href="http://www.agulin.aoyama.ac.jp">http://www.agulin.aoyama.ac.jp</a>
教育メディア運用室	※	9:00~16:00	※システムの入替え工事があるので臨時に閉室や変更になる ことがあります。詳しいことは教育メディア運用室前の掲 示かホームページで確認してください。 <a href="http://www.luce.aoyama.ac.jp/media-info/">http://www.luce.aoyama.ac.jp/media-info/</a>
情報処理実習室 マルチメディア教室			
証明書自動発行機の稼働 《有料》卒見・成績・健康診断 《無料》学割	月~金	8:00~17:00	*学生証が必要です *発行機は北校舎1階掲示板前

**前期定期試験等の日程について**

- ◎前期定期試験期間 7月19日(火)~25日(月)
- ◎前期追試験受験手続期間 7月19日(火)~26日(火)  
月~金:午前9時~午後4時30分  
土曜日:午前9時~午後12時
- ◎前期追試験 7月30日(土),8月1日(月)
- ◎前期終了科目教務課提出レポート受付期間 7月14日(木),15日(金)
- ◎夏期休業 7月26日(火)~9月14日(水)
- ◎前期成績通知(前期終了科目のみ) 9月1日(木)学生情報端末で印刷開始
- ◎後期授業開始 9月15日(木)
- ◎後期開講科目履修登録 9月15日(木),16日(金)
- ※前期定期試験等の日程の詳細は学生情報端末でお知らせします。

**2005年度後期分学費について**

学 年	学 科	国文・英文・家政・教養	児童教育	芸 術
1 年		368,500円	373,500円	415,500円
2 年		384,500円	389,500円	431,500円
専 攻		362,500円	367,500円	409,500円

※納付書発送 9月中旬  
納入期限 10月中旬  
(注) 外部の短期大学から入学した専攻科生は、上記の他、同窓会費16,000円 が必要になります。

**本科より専攻科への入試情報**

今年度の本科より専攻科への入試日程は以下のとおりです。  
募集要項は本館受付にて販売しています。

- 〈児童教育専攻〉  
願書受付(郵送のみ) 7/13(水)~14(木) (期間内消印有効)  
入学試験日 9/10(土)筆記試験 9/17(土)面接
- 〈国文・英文・家政・教養・芸術専攻〉  
〈他学科から教養専攻〉  
願書受付(郵送のみ) 11/21(月)~22(火) (期間内消印有効)  
入学試験日 12/3(土)

注意:2次募集はありません

★クーリエへの感想やご意見をお寄せください。kouhou@luce.aoyama.ac.jp

**ギャラリー展覧会案内**

**Exhibition Guide**

- 6/27(月)~7/8(金) [16th おーる あおやま あーと てん '05] ー青山学院交流企画展として、幼稚園児~大学生までの作品がご覧になれますー
- 7/11(月)~7/22(金).....[芸術学科'05展] ー芸術学科の授業で制作した作品が展示されますー
- 9/15(木)~9/30(金).....[児童教育学科2005図画作品展] ー児童教育学科1年生の描いた油彩画をたくさん展示しますー
- 10/3(月)~10/14(金).....[第2回 オーク・コレクション展] ー図書館から、貴重な資料が公開されますー
- 10/17(月)~10/27(木) [13th 芸術学科卒業生によるグループ展] ー芸術学科の卒業生が力作を持ち寄って発表しますー
- 10/29(土)~10/30(日).....(青山祭の展示)
- 11/2(水)~11/18(金).....[短大企画 創立記念所蔵作品展] ー青山学院の131回目の誕生日11月1日を記念して、短大所蔵の美術作品を紹介しますー
- 11/22(火)~12/22(木) [Art クリスマス AOYAMA in Gallery ] ークリスマスにちなんだ作品を幼稚園から大学まで一堂に展示しますー



「国連難民 (UNHCR)」写真展  
4月19日(火)~28日(水)



「教養学科展」  
5月9日(月)~20日(金)

**編集後記**

今号も、教養と知的好奇心を高め、読んで励まされ、読み物としても楽しめる記事、すぐに役立つ情報を載せました。  
在校生、卒業生、教職員が一堂に会して語り合う「クーリエ・フォーラム」を実施できました。出席者の方々ありがとうございました。おかげ様で、準備段階から掲載まで、編集長が費やした多大な時間と労力が充分報われる内容の仕上がりになりました。  
「夏を制するものは受験を制する」――昔、高3の今頃聞いたこの言葉をいまだに覚えています。「受験」をあなたの夢や目標に置き換えて、この夏に挑戦してみませんか。(宮内 華代子)

編集委員 奥井 正司 奥村 健一 志賀 智江  
田口 恵子 寺村 眞佐子 宮内 華代子

※次回発行は12月の予定です。